

令和4年度(2022年度)第1回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)5月14日(土)9:30~12:00
場所	川口中学校 被服室
出席者	参加者：荒井、稲原、白鳥(信)、高野、外山、内藤(妙)、内藤(ト)、中村、平井、古田、安田、山口 高齢者あんしん相談センター川口：小林 高齢者あんしん相談センター恩方：長内 八王子地域 PAL-ETTE：平島、中村 契約資産部資産管理課：小林(中)、高田、小林(遼)、狩野 学校教育部地域教育推進課：高橋、持田 未来デザイン室：今川、野田、牧瀬
見学者	町会・自治会防犯灯担当課長：塩澤 川口中学校校長：鷲尾 八王子未来 CAN-VAS：石井
配付資料	・ 令和4年度(2022年度)第1回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・ 川口中学校区地域カルテ ・ 川口中学校区地域づくり推進計画 ・ 川口中学校区地域づくり推進計画(概要版) ・ 川口中学校区における学校再編の基本的な考え方

1 開会

未来デザイン室から挨拶。

2 オリエンテーション

本日の検討内容の確認。

3 議題

(1) 地域カルテ、地域づくり推進計画及び概要版について

ア 取りまとめ過程の確認

会議資料をもとに、第8回「川口中学校区地域づくり推進会議(以下「推進会議」という。)」において検討した川口中学校区地域カルテ(以下「カルテ」という。)、川口中学校区地域づくり推進計画(以下「計画」という。)、川口中学校区地域づくり推進計画(概要版)(以下、「概要版」という。)について、掲載承諾が必要な団体等への確認、掲載内容に関連する関係所管課への確認、他の中学校区の掲載内容を踏まえた最終調整を行ったうえで取りまとめたこと、各成果品の一般公開は、広報はちおうじ(6月15日号)からとなること、川口中学校区に転入してくる方へはカルテを別途配布することを説明した。

イ 配布先及び配布場所

会議資料をもとに、配布先はカルテ、計画及び概要版の作成に関わっていただいた方に対し紙媒体で配布すること、配布場所は紙媒体での配布を絞ったため、誰でも地域づくりに興味を持った方が入手しやすい身近な施設で配布すること、配布場所のなかでも、直営の施設については、他

の中学校区で作成した各成果品すべてを配布することを説明した。ア、イに関する参加者からの主な意見は以下のとおり。

<主な参加者意見>

- ・ 配布先及び配布場所の考え方は良いと思うが、配布場所で入手できるのは、カルテと概要版のみで良いか。
計画も配布場所に行けば、入手することができる。(未来デザイン室)
- ・ 計画は紙を多く使用しているため、予算のことを考えるのであれば、概要版のみで良いのでは。ご意見としていただく。(未来デザイン室)

ウ 意見交換【テーマ】電子媒体での発信方法

会議資料をもとに、紙媒体での配布を残しつつ、地域に関わる多くの方々に電子媒体で周知するためには、どのような手法があるかについて意見交換を行った。主な内容は、以下のとおり。(詳細は、令和4年度(2022年度)第1回川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容)

<主な意見交換内容>

- ・ 町自連のホームページでは、様々な情報を掲載している。ホームページ掲載の良い面としては、外国からのアクセスがあるなど様々な方に閲覧いただけている。一方、悪い面としては全体のアクセス数が少ない。
- ・ これまで電子媒体から情報を入手していない方全員が閲覧できるとは考えづらい。今できる手段を用いて電子媒体で発信し、少しでも広げていくことが必要ではないか。現に4つの中学校区で推進会議が設置され、それぞれで情報発信することができれば、これまで以上の閲覧は期待できる。
- ・ 団体のHPにリンク貼付は可能であるが、若年層は、ホームページではなくSNSで情報を入手する傾向にあるため、どこまで効果があるかは分からない。
地域団体のなかでSNSを活用した情報発信を行っている団体はあるか。(未来デザイン室)
行っていない。(参加者全員)
- ・ PTAでは、昨年実施したアンケート調査でマチコミメールを活用した情報発信を行った。今回も同様の情報発信を行うことは可能か。(未来デザイン室)
依頼があれば、マチコミメールにリンク貼付し、情報発信することは可能。(参加者)
- ・ 保育園は、モバイルメールで発信することが可能。ただし、保育園情報でさえも見ていただけていないのが現状。開いてもらうための工夫が別途必要ではないか。
- ・ 福祉ボランティア団体や青少年対策地区委員会、民生児童委員では、電子媒体での情報発信を行っているのか。(未来デザイン室)
対象や団体構成員の高齢者割合が高く、ほとんどが紙媒体で情報を発信及び入手している。(参加者)
そういった団体はまだ多い。紙媒体での情報発信は、一定程度残す必要はある。(参加者)
- ・ 地域カルテを校区内の学校に通う子どもたちに配布することはできないか。PTAでは、学校のことを家で話をしてもらえよう、情報を子どもと大人両方に発信している。
- ・ 川口中学校をはじめとする川口中学校区内の学校から情報発信をお願いすることは可能ではないか。小中一貫教育の推進や小学校間の連携は、今後の地域づくりを進めていくうえで必要となってくると認識している。(川口中学校校長)
- ・ 各町会に回覧してはどうか。

各町会全てに回覧するといった形になると、多くの部数が必要となるため、そのほかの配布部数を確認させていただいたうえで対応させていただきたい。(未来デザイン室)

本項目について様々な御意見をいただいた。事務局において改めて発信方法を検討し、参加者の皆様にも御協力をいただきながら、効果的な手法を用いて取り組んでいきたい。

(2) 令和4年度(2022年度)における地域づくり推進会議の運用について

ア 本市が目指す地域づくりとは

会議資料をもとに、本市が目指す地域づくりとは、「共に支えあい、担いあう地域社会の実現」、「地域のすべての力を最大限に活用」、「地域における自立的・主体的な課題への対応」、「全市規模の施策を地域単位への施策へ転換」を実現させていくこと、これらを実現するためには、各中学校区に設置する推進会議の運営体制や方法などを検証する必要がある。川口・長房中学校区は、そのモデルとして令和3年度(2021年度)から取り組んでいること、市役所も地域づくりの実現に向けて変えていく必要があることを説明した。主な参加者意見は、以下のとおり。

<主な参加者意見>

- ・ 今後、地域づくりを推進していくにあたっては、「行政側のスピード感」が重要であると認識している。地域の声を踏まえた施策や、時代を先取りした施策が展開されることで、地域と行政の信頼関係が構築され、もっと地域も活性されていくのではないかと。

参加者の皆様からは、今後、そういった御意見もいただきながら制度設計に活用していきたい。(未来デザイン室)

- ・ 計画に基づく取組を進める一方で、持続的な運営ができる制度を構築する必要がある。その一例として、地域に予算措置を行い、議会のような場所で予算執行の検討及び決定することで、行政が入らなくても活動できれば、地域づくりが目指す姿を実現できるのではないかと。

そういった制度設計をこのモデル地区での取組と平行して進めている。構築に向けて地域に関わる内容については、参加者の皆様からも御意見を伺いたい。(未来デザイン室)

予算の話で言えば、既に社会福祉協議会で補助金を出しており、それを少し拡大するところから始めてみるのが良いのでは。(参加者)

将来的には、川口地区で使える予算と行政として地域に担ってほしい役割を明確化してもらえれば、地域づくりも自然と構築されていくのではないかと。(参加者)

- ・ PTA活動においても、家事や仕事を両立しながらボランティアで行っているのが現状。今後、ボランティアではなく、少しでも有償化することで、活動の拡大やモチベーションの向上、担い手の増加につながるのではないかと。また、顔が見える関係も作っていくことができる。

本項目について様々な御意見をいただいた。今後も制度構築を進めていくうえでは、参加者の皆様の御意見が必要となるため、引き続き、御協力をお願いしたい。

イ 令和4年度(2022年度)における地域づくり推進会議の目標

会議資料をもとに、令和4年度(2022年度)における推進会議の目標は、「地域で主体的に会議運営できる体制の構築」、「優先的アクションプランの実行」、「地域づくり推進計画の充実」であることを説明した。主な参加者意見は、以下のとおり。

<主な参加者意見>

- ・ 先ほどの説明に予算の話があった。令和4年度(2022年度)に運営していくなかでは、会場費や消耗品、お茶代などの費用負担はどのような形になるのか。

費用負担が必要となる場合は、その都度事務局に御相談いただきたい。費用負担も含めて検討させていただく。(未来デザイン室)

- ・ 川口事務所を活動拠点としてはどうか。

それも一案としてはある。ただし、地域全体としてどこの場所であれば誰もが行きやすく、使い勝手が良いかを制度構築と合わせて検討していく。(未来デザイン室)

- ・ 常に使える会場があれば、日程や場所の調整が容易にできるため、会議等も開催しやすい。
- ・ 試行的に役員会や部会を実施していくとして説明があった。現在、マルシェやコミュニティカレンダーは実際に動き出している。そこに対する資金援助はないのか。

今年度については、人的支援が主となる。ただし、内容によっては、予算がかからない形で応援や提案ができる可能性もあるため、相談はしていただきたい。(未来デザイン室)

- ・ マルシェやコミュニティカレンダーは、具体的な活動に向けて住民協議会でも検討をしており、なかでもマルシェについては、川口やまゆり館まつりと協働で実施できるよう、総会でも了承を得た。新型コロナウイルスの懸念はあるが、実施できれば、これまで以上に人を巻き込んで開催できると考えている。

ウ 各団体の参加者変更に伴う手続き及び推進会議への関わり方

会議資料をもとに、役員改選等に伴い参加者を変更する場合は、再度団体の代表者から推薦書の提出をお願いしたいこと、参加者が変更となったとしても、引き続き、推進会議に関わっていただきたいことを説明した。

エ 役員会及び部会の考え方

会議資料をもとに、役員会及び部会の主な役割について図を用いながら説明した。主な参加者意見は以下のとおり。

<主な参加者意見>

- ・ 内容は理解できるが、実際に運用をしている訳ではないため、どのような役割が必要なのかの判断ができない。まずは、現状記載のある内容で実施し、必要に応じて見直しをしていけば良いのではないかと。

それでは、一旦そのような形で進めさせていただく。(未来デザイン室)

オ 意見交換

【テーマ】令和4年度(2022年度)の地域づくり参加者について

地域づくり推進会議において地域全体のことを議論するにあたり、どのような方の参加が必要か。また、誰もが地域づくりに参加するためには、どのようなしくみが必要だと思ふかについて意見交換を行った結果、現参加者を令和4年度(2022年度)参加者とし、参加者追加は制度設計が一定程度構築できた段階で再度検討することで同意した。主な意見交換の内容は、以下のとおり。

<主な意見交換内容>

- ・ 現在集まっている参加者は、既に各分野を一定程度網羅しており、ここから新たな人材をいれていくというのは難しいのではないかと。

令和3年度(2021年度)は、今集まっていた方々を参加者とすることで提案した。ただし、国際関係や障害者関係など、入っていない要素もあると考えており、今年度新たにスタートするにあたり、参加者として入っていないか確認させていただきたい。(未来デザイン室)

- ・ 今集まっている参加者は、既に地域で活動している方がほとんどだが、地域全体にはどんな方がいて、どのような活動をしているかについて把握している訳ではない。そのため、どういった方が推進会議に参加した方が良いとは言えない。

個人情報に関係もあり、現状、外国人がどれくらい地域に住んでいるのかを把握していない。市として示してもらえれば、国際関係者が参加することの重要性も分かるのではないかと。(参加者)

- ・ 美山町会では、理事を外国籍の方にやっていただいたことがある。日本語を普通に話していたので、活動をするうえでの問題はなかったが、実際に参加者として加わってもらおうと、言葉の壁はある。

川口地区の消防団に外国籍の方がいる。(参加者)

既に地域活動に関わっている外国籍の方を推進会議に入れてみてはどうか。(参加者)

- ・ 今の参加者のなかには、障害関係者は入っているのか。

いただいた推薦書の役職を確認する限りではない。(未来デザイン室)

- ・ 町会関係で障害者関係に精通した方なら知っている。前に地域づくりワークショップにも参加いただいた。推進会議への参加を要請すれば、協力していただける。

- ・ 地域人材については、様々な御意見をいただいた。令和4年度(2022年度)は、そういった方々に推進会議の参加者として関わっていただいた方が良いか。(未来デザイン室)

令和4年度(2022年度)は、役員会や部会を試行的に実施していく状況。また、参加者同士も行政を通してのつながりでしかなく、あっても個人レベルで数人がつながっている程度。そのようななかで新たな参加者を入れたとしても、役割や体制が整っていないため、制度構築は難しいのではないかと。(参加者)

今の状況で新たな参加者を入れていくと、話がまとまらなくなる恐れがある。人を入れていく前に、まずは制度設計をしっかりと作ることが先決ではないかと。(参加者)

体制構築をしっかりと行えば、行政も予算を検討した際に措置をしやすいのではないかと。地域からすれば、予算措置をされた後でも参加者の追加は可能。予算がなければ活動に制限がかかり、地域づくりそのものも発展していくことは難しい。(参加者)

- ・ 参加者の皆様の御意見を踏まえると、当初は現参加者で検討を進め、制度設計がまとまってきた段階で、新たな参加者や、多様な市民の方々の参加方法についても検討していくということが良いか。(未来デザイン室)

その考え方で良い。制度設計や実績があれば、地域に関わる多くの方が必然的に関わり、地域づくりの活動もさらに活性化していくのではないかと。(参加者)

- ・ 地域人材の検討も必要だが、地域に専従する人を配置することも重要。今の参加者は、普段は仕事をしており、常に地域のことを考えるのは難しい。

予算があれば、地域人材を雇う形で常駐させ、全体統括と行政との調整を仕事としてやってもらうことができる。(参加者)

様々な御意見をいただいた。今後、推進会議を進めていくなかで、引き続き、検討させていただきたい。(未来デザイン室)

【テーマ】役員会及び部会の運用方法や役割について

役員会についてどのような運営方法が望ましいか。また、どのような役割があるとよ

り円滑に会議運営ができると思うかについて意見交換を行う予定だったが、「エ 役員会及び部会の考え方」において、まずは試行的に現状の役割を実施していくとしたため、意見交換を第2回推進会議以降に回すことを説明した。

(3)【ワーク】部会の実施方法について

会議資料をもとに、部会を「地域で主体的に会議運営できる体制の構築」の第一歩として、アクションプランごとに自主的に運営できるように進めていくための具体的な方法について検討した。各グループの主な検討結果は、以下のとおり。(詳細は、令和4年度(2022年度)第1回川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容)

<マルシェグループ>

- 開催頻度：第1回で決定。
- どこで：第1回は川口市民センター会議室。第2回以降の場所は、第1回で決定。
- 連絡方法：LINE かメールの予定。詳細は、第1回で決定。
- 資料の共有方法：第1回で決定。
- 行政に協力してほしいこと：会場費の負担。

令和4年度(2022年度)は、事務局で会場費を負担できる予算がないため、必要に応じて無料の公共施設の使用を御案内させていただく。(未来デザイン室)

- 第1回の部会：令和4年(2022年)5月22日(日)19:00~ 川口市民センター会議室

<コミュニティカレンダーグループ>

- 開催頻度：完成時期によって調整。現状は、9月頃の発行を目標とし、詳細を第1回で決定。
- どこで：川口事務所が良い。具体的な場所は、事務局が探し別途連絡。
- 連絡方法：第1回で決定。
- 資料の共有方法：未定
- 行政に協力してほしいこと：なし
- 第1回の部会：令和4年(2022年)6月4日(土)9:00~ 川口事務所内

(4) 学校再編の基本的な考え方について

資料「川口中学校区における学校再編の基本的な考え方」をもとに地域教育推進課より説明及び意見交換を行った。主な参加者意見は、以下のとおり。

<主な参加者意見>

- ・ 川口の義務教育学校をどこの土地に建設するかについて決定しているのか。
基本的には、川口中学校または川口小学校を想定している。(地域教育推進課)
- ・ いずみの森義務教育学校同様に学童保育所は施設内に建設していくのか。
どの施設を複合化していくのかについては、地域の皆様とともに検討していきたい。(地域教育推進課)
- ・ 義務教育学校にした際に、小学校の放課後子ども教室と中学校の部活動で校庭の利用が重なる恐れがある。どのように考えているのか。

今後、このような御意見をいただきたいと考えている。今回の例としては、中庭を放課後子ども教室で使用するなど、部活動と切り分ける必要があると認識している。(地域教育推進課)

- ・ 現在の学校関係者だけではなく、将来的に子どもを入学させる保護者にも説明をして欲しい。
御意見としていただく。推進会議の参加者の皆様から説明をさせていただいたが、今後、保育園・幼稚園の保護者などにも説明する予定。(地域教育推進課)
- ・ 地域の意見を聞くことは必要だが、学校の再編は、行政の責任のもと、決定した基本的な考え方を示したうえで、地域の意見を取り入れる部分を分けなければ話は進まない。ただし、地域としての思いはあるため、それをどのような手法を用いて解決するかは考える必要はある。
- ・ 地域として心配しているのは、耐用年数の問題。学校の再編の話が進まずに時が流れてしまっ
ては、先に建物が耐えられなくなる。
建物の関係については、令和5年度(2023年度)に予算措置された場合、長房中学校区と同様に耐力度調査を実施したいと考えている。また、耐用年数の問題は、喫緊の課題として認識しており、できる限り早く学校の再編を進めていきたい。(地域教育推進課)
- ・ 学校の敷地内に仮設校舎を建てると、クラブや部活の活動に制限がかかる。そういったことも考慮してほしい。
- ・ 川口地区の義務教育学校には、松枝小学校は入らないのか。
松枝小学校は残す予定としており、学区を川口中学校区と榎原中学校区のどちらにするのかを今後検討していきたい。(地域教育推進課)
- ・ 学校に通う子ども達が2つの中学校に行ってしまう形は、地域コミュニティの醸成に支障をきたしているのが現状。町会自治会でも解消するようにこれまでも話をしてきた。
- ・ 現状、上川口小学校は学区外の子が半数を超えており、地元の子は川口小学校に行っている。地域の子は地域で育てるといった理念が実情と異なっている。ただ、学区外の人でも上川口の行事に参加するなどのメリットはある。
- ・ 学校選択制は今後も継続するのか。
今回の学校の再編に絡めて検討していく必要がある。(地域教育推進課)
- ・ 上川の地域では、学校を地域のシンボルとして考えており、小規模校だとしても大切だと思っている。実際に進めていくのであれば、そのあたりもしっかりと考えて欲しい。
本日は様々な御意見をいただいた。今後、地域の子どもは地域で育てる、小中一貫教育を推進して
いけるよう地域の皆様とともに検討していきたい。

閉会

令和4年度(2022年度)における推進会議全体会の日時について、地域全体の行事・イベントと重複していないかの確認とともに、第2回推進会議全体会の日時を伝えた。なお、重複している場合は、令和4年(2022年)5月20日(金)までに事務局へ連絡するように依頼した。

○第2回：令和4年(2022年)6月26日(日)9:30~12:00 川口中学校被服室(予定)

以上

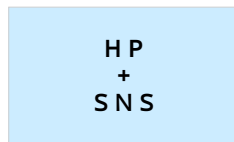
令和4年度（2022年度）第1回川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

電子媒体での発信方法

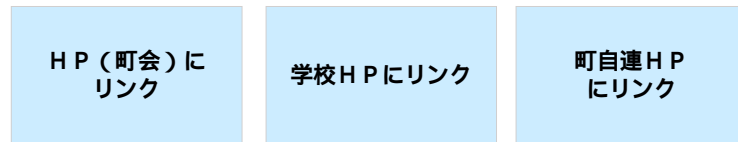
全般



SNS



HPにリンク掲載



メール

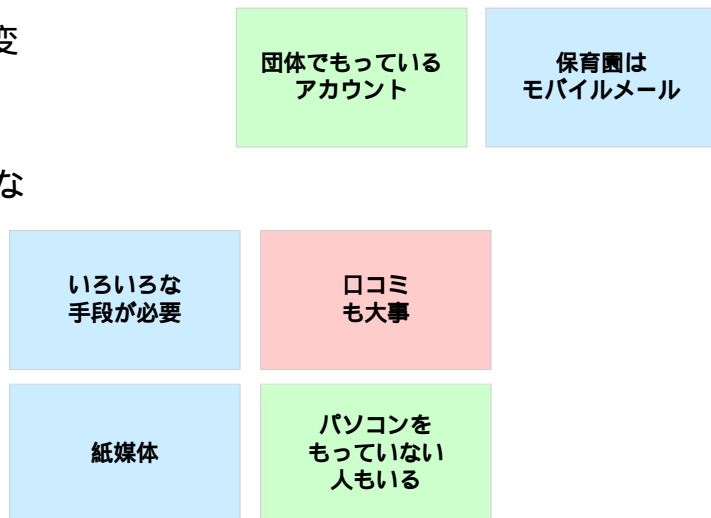
高齢者などは大変



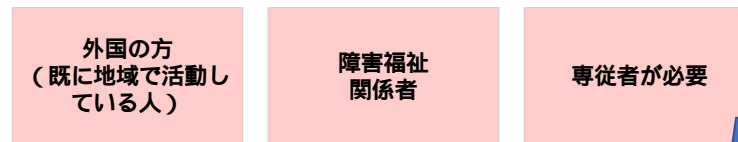
紙を含め、様々な媒体が大切



やりながら電子媒体の拡大

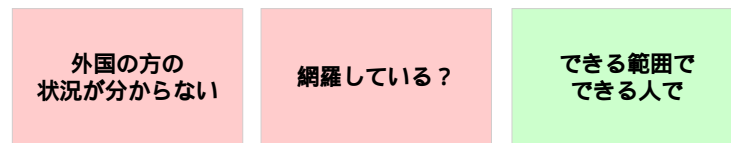


令和4年度（2022年度）川口中学校区地域づくり推進会議参加者について



川口事務所に常駐

- ・ 拡大する前に体制をまとめることが先では
- ・ 一つ一つ積み重ねることが大切
- ・ できる範囲、できるメンバーで
- ・ 予算の受け皿をまず構築



令和4年度（2022年度）第1回川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

部会の実施方法について（マルシェ）

開催頻度

第1回部会后
決定

資料の共有方法

第1回部会后
決定

7月中までに催し物
の場所を決定
マルシェ、掲示等

各団体意向確認
5月末

どこで

やまゆり館
会議室

行政に協力してほしいこと

第1回に行政は
でられるのか？

第1回で行政側で
できることはなにか
ききたい。予算等

住民協の予算だけに
頼るのか

市として
持ち帰って検討

連絡方法

LINE
メール

マルシェチーム
ではすでにある

川口担当者は
できない？

市として
持ち帰って検討

第1回の部会

5月22日（日）
19時

やまゆり館まつりの
中心
イベント企画部
との調整

やまゆり館内
住民協
話し合い

調整
わいわいランド
伝統芸能

令和4年度（2022年度）第1回川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

部会の実施方法について（コミュニティカレンダー）

主だった行事・イベント
できるところから！
できる方法で！！

カルテを重複しない
ようにする
たくさん入れ込まないで
確定しているものから

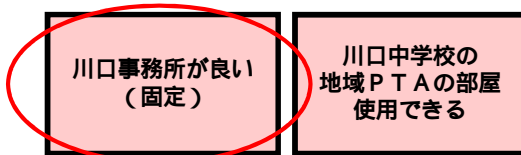
開催頻度

資料の共有方法



どこで

行政に協力してほしいこと



連絡方法

第1回の部会

